

第6学年 道徳学習指導案

に組 男子20名 女子18名 計38名
指 導 者 福 留 忠 洋

1 主 題 名 成長のひけつ

A 個性の伸長 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこと。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに、学級での様々な活動や友達との交流を通して、友達のよさに気付いたり、自分との違いを意識したりして、自分の特徴に気付きつつある。また、自分の特徴に気付く中で、自分のよいところや改善したいと感じる所についても意識するようになってきている。しかし、あきらめや自己中心的な考え、羞恥心などから自分の改善したいところを見つめ直す大切さを理解しつつも、改善するために自ら努力しようと取り組もうとするところまでに至っていない。このようなことから、この期の子どもたちに、自分の特徴を理解し、長所や短所に気付かせ長所はよい方向へと伸ばし、短所は改めることを通して、自分の生活を見直していこうとする態度を育てる必要がある。

本主題では、自分の特徴を知り、長所や短所に気付きつつも、改善したい点について自ら行動できないでいる場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と関係付けて類推しながら追究する活動を通して、自分の特徴を知ることや自分の短所を改善することが、自分らしさをつくり上げるために大切であることを理解し、調和のとれた自己を形成していこうという気持ちを大切にすることを育てることをねらいとしている。さらには、自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことの生き方は、自他共に意欲的に生活していこうとすることやお互いを認め、高め合いながら生活していくことに繋がるということのよさを実感し、これからの生活に生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

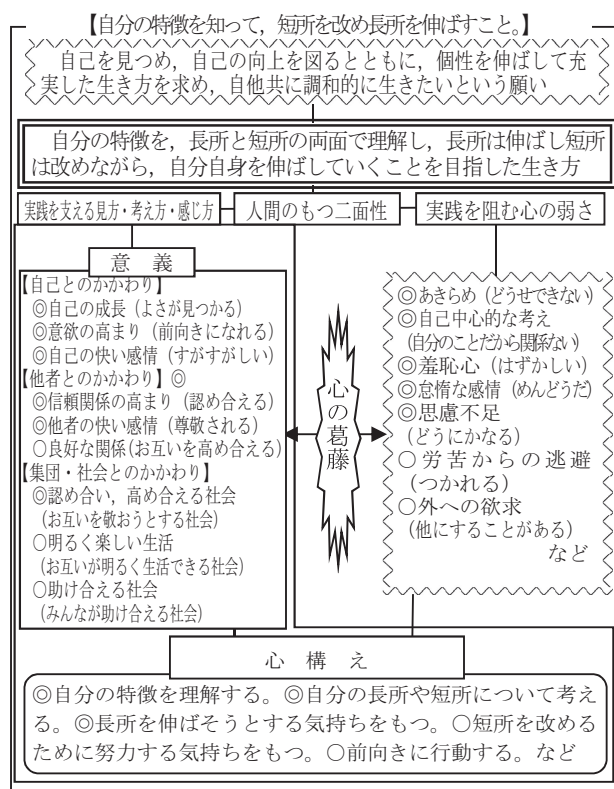
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を深く追究していく学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図ようになる。

自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすこととは、自分が他と比べて目立つ点を長所と短所の両面で理解し、長所は伸ばし短所は改めながら、自分自身を伸ばし、自己実現を図り、個性を伸ばしていくことであると捉えることができる。

ここでは、自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を求め、自他共に調和的に生きたいという願いの基に、自分の特徴を、長所と短所の両面で理解し、長所は伸ばし短所は改め、自分自身を伸ばしていくことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱さの両面から、人間理解を深めていくことになる。具体的には、自分の特徴を知って、



◎は重点的な学習内容

短所を改め長所を伸ばすことで、自己の成長や意欲の高まりにつながることを、さらには他者との良好な人間関係を築けたり、お互いを認め合える生活を築いていけたりすることにつながることを理解させる。また、それらの実現に必要な心構えとして、「自分の特徴を理解する」「自分の長所や短所について考える」「長所を伸ばそうとする気持ちをもつ」「短所を改めるために努力する気持ちをもつ」ことも理解させる。そして、これらの意義や心構えを深めたり広げたりするために、自分の特徴を知り、短所を改め長所を伸ばそうという気持ちをもちながらも、あきらめや自己中心的な考え、羞恥心から、なかなか実践できないことについても理解を深めたり広げたりする。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では読み物資料「人間はすばらしい」（学研教育みらい）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

作家の椋鳩十が、小学生時代の思い出を振り返りながら、小学生に講演している内容である。人間は、動物として生きる力だけでなく、一人一人がそれぞれ素晴らしい力をもった存在であるということ自身を自身の体験を基に伝えている。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、筆者の心情に十分に触れさせるために、範読CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場면을振り返らせながら関係付けて類推させるようにし、筆者の心情や心情の背景について自我関与させる。

具体的には、まず自ら立てた課題を追究するために、『『すばらしい力』をもっている』の言葉に焦点化させる。次に、筆者の見方・考え方・感じ方について、**自分の特徴の知り方や、自分のよさを伸ばしたり短所を改めたりすることについて自らの生活場面と関係付け、他の見方・考え方・感じ方と比較する場を設定する。**その際、ここでの道徳的価値にかかわる見方・考え方・感じ方を多面的・多角的に捉えさせながら、自らの課題を明確にさせる対話活動を取り入れる。さらに、授業の中で感じたことを自らの生活場面と関係付けて考えさせたり、今までの自分の生活と比較させて考えさせてまとめたりすることを通して、生活場面での意欲や態度を高めるようにする。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、自分の特徴を、長所と短所の両面で理解し、長所は伸ばし短所は改めて、自分自身を伸ばしていくことを目指した生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると考える。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことにかかわる感情や実践を阻む心の弱さ、実践を支えるための心構え、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）に対する認識は、以下の通りである。

〔表1〕自分の目立つ考えや行為の捉え（総反応数46）

目立つ考えや行為（長所）	反応数（人）	見直したい考え方や行為（短所）	反応数（人）
明るい	10	計画性の欠如	5
誰とでも仲良くできる	7	短気なところ	4
やさしい	7	自己中心的	3
読書好き	4	ものを無くす	2
正直さ	2	人に流される	1
粘り強い	1		

〔表2〕実践を阻む心の弱さについての認識（総反応数48）

心の弱さ	反応数（人）	心の弱さ	反応数（人）	心の弱さ	反応数（人）
怠惰な感情（めんどろ）	19	あきらめ	7	自己中心的な考え（自分のことだから）	5
羞恥心（はずかしい）	5	思慮不足（どうにかなる）	4	外への欲求（遊びたい）	1

〔表3〕実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）（総反応数41）

見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）	見方・考え方・感じ方	反応数（人）
前向きな気持ちをもつ	14	相手の気持ちを考える	11	あきらめずに続ける	5
目標をもつ	7	周囲の状況を考える	4		

[表4]実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）（総反応数118）

見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方			見方・考え方・感じ方		
反応数(人)			反応数(人)			反応数(人)		
対 自 己	前向きになれる	25	対 他 者	認め合い、信頼し合える	12	対 集 団 ・ 社 会	お互いを認め、高め合える社会	15
	長所が増え、成長できる	11		迷惑がかからない（指摘しなくてすむ）	12		明るく生活できる	13
	誰とでも仲良くできる	4		相手が喜ぶ	11		お互いを支え合える社会	3
	短所を長所へと変えられる	3		明るくなる	7			
	短所と長所が分かる	2						

[表1] から自分の目立つ点や行為については、「明るい」「誰とでも仲良くできる」「読書好き」といった捉えをもち、性格面や他者との関係、習慣化している行為の面において、それらを長所として捉えている。また、見直したい考えや行為については「計画性の欠如」「短気」「自己中心的」などの性格面について捉えている子が見られる。これは、[表2] の「めんどうだ」「あきらめ」「自分のことだから」などの心の弱さが原因であると理解している子が多い。さらに、[表3] から、「前向きな気持ちをもつ」「相手の気持ちを考える」「あきらめずに続ける」という心構えの大切さを感じている子どもが多いが、それは短所を改めることに関わる心構えとして捉えている傾向が強いと考えられ、長所を見いだそうと自分を見つめ直したり、短所を改めるために具体的に行動したりしている子どもは少ないと考えられる。[表4] からは、「前向きになれる」「認め合い、信頼し合える」という意義を感じている子どもが多いが、短所を長所に変えることやそれらに気付くことを意義と捉えている子は少ない。

そこで、自分の特徴を知ることにかかわる「短所や長所が分かり、短所を長所に変えるよさ」などの意義と「前向きな気持ちをもつ」などの心構えを十分に関連付けて考えさせたり、自分の特徴を知ろうしたり、短所を改めたりすることのできない心の弱さを対比的に考えさせたりして、自分の特徴を知ることや長所は伸ばし短所は改めていこうとするもののよさを重点的に考えさせていく。

一方、道徳の時間においては、本学級の子どもたちは、登場人物の心情やその背景と自らの生活場面を関係付けてとらえることはできるが、それらを生活経験の異なる子どもと積極的に交流し、自らの道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方を深めたり広げたりしようとするまでは至っていない。そこで、道徳的価値のもつ意味を自らの生活場面と関連付けて考えさせるために、一枚絵等を使用し、多様な見方・考え方・感じ方について生活場面を想起させながら重点的に考えさせたりすることを通して、学んだことと自分の生き方とのかかわりを意識させながら追究するような働きかけを具体化していく。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことのよさを子どもたち同士がお互いの見方等を大切にしながら主体的に追究することを通して、実感を深める中で、子どもたちがこれまでの様々な体験で感じてきた道徳的価値にかかわるよさが、これからの生き方へと連続、発展していくようにしたい。

ア この内容にかかわる生き方についての切実な問題意識をもたせるために、自分と友達と比べたときに異なる部分について自分なりの捉えを他の見方・考え方・感じ方と比較して考えさせることで、子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 筆者の言葉のもつ道徳的価値観について、子ども自らの道徳的価値観と比較させながら追究させるために、「すばらしい力をもっている」の言葉に焦点化する。そして、**焦点化した言葉についての捉えの曖昧さを自らの生活場面での見方等と関係付けながら、「よさが見つかる」「自分の特徴を知る」「長所や短所に気付く」などの意義や心構えについて、多様な見方等に触れさせ、自らの課題を明確にさせる対話活動を行う。**

ウ これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めるために、筆者の考えや設定させた学習問題を基に自分の生き方にかかわる見方等を振り返らせる。その際、書く活動を取り入れ、自らの立てた課題に対する見方等の変容を確かめさせる。また、それらが自分のこれからの生き方の中でどのような場面で生かしていけるか考えさせる説話を行い、期待感をもつことができる場を設定する。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことにかかわる内容についての自分自身の生き方を見つめ、自分のよさに気付いたり、改善したりしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で自らの体験場面での内面と関係付けて、類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことにかかわる内容について、自己の成長や自分の特徴を知る、自分の長所や短所について考えるなどの意義や心構えの大切さについて自分の生き方とのかかわりを通して理解することができる。

(2) 指導にあたって

多様な道徳的価値観を表出させながら追究させるために、筆者の「すばらしい力をもっている」の言葉を提示し、「なかなか意識できない」「自分にもある」「見つけ方が分からない」などのそれぞれの心情やその背景における自分の見方等と他の見方等を比較させながら、課題を明確にさせて展開していく。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気 付 く ↓ さ ぐ る	1 考えていきたい問題に気付く。 ・ 明るい ・ 誰とでも仲よくできる。 ・ めんどくさがり ・ 気が短い 自分のよさを伸ばすには	(分) 10	○ 個性の伸長にかかわる自己の捉え方を明確にさせるために、「長所や短所は誰が決めるのか」と問い自分の見方等と友達の見方等を比較させ、矛盾や疑問から問題意識を高めさせる。
	2 資料「人間はすばらしい」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) 棕さんの言動や心情、心情の背景について感想をもち、「すばらしい力」の言葉に込められた心情の背景について話し合う。 【「すばらしい力」の言葉に込めた棕さんの心情】 自分のよさを伸ばしてほしい。 ⇒人にはそれぞれよさがある。 ⇒自分の好きなことを続けてほしい。 ⇒気付く努力をすることが大切 【心の弱さ】 ・ あきらめてしまう。 ・ 改善することは難しい。 ・ はずかしい ・ 改善したいとは思っている。 ・ 自分のことだから。 ・ 行動にうつすせない。 【心構え】 ・ 自分の特徴を知る。 ・ 長所や短所について考える。 ・ 長所は伸ばし、短所は改める気持ちもつ。 【意 義】 よさが見つかる→前向きになれる→認め合える→尊敬し合える→お互い認め、高め合える→明るく生活できる など	25	◎ 『すばらしい力』ってみんなにはありますか。 ○ 多様な道徳的価値観を表出させながら追究させるために、すばらしい力にかかわる場面絵を提示し、自由に相手を代えて対話しながら、「ある」「よく分からない」などのそれぞれの心情やその背景について、自分の見方等と他の見方等を比較させる。 ○ 「人はそれぞれよさがある」などの棕さんの心情とその背景と「見つけ方が分からない」などの自分の見方等を基に、それぞれの見方等を表出しやすい話し合いの場を設定し、自分なりの見方等を明確にさせる。 ○ 「気付かなければ、伸ばせないのではないかと問い、自分を伸ばすために「よさが見つかる」「認め合える」や「自分の特徴を知る」「長所や短所について考える」などの意義や心構えと自分の生活場面と関係付けて考えさせる。 ○ 道徳的価値のもつよさについての見方等を生活場面と関係付けて捉えさせるために、自分なりの考えをカードに端的にまとめさせ、互いの理由や生活場面での経験など明らかにしながら話し合わせる。
見 つ け る ↓ 深 め る ↓ 見 通 す	3 学習したことを振り返り、自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことについて、自分なりの考えをまとめる。 いろいろなことに取り組んで、自分の特徴に気付く努力をすることも大切だな。	7	○ 新たに加わった道徳的価値についての見方等を基に、自己の生き方について振り返させるために、自分の見方等が明確になった場面や他の見方等を振り返らせ、ノートに記入させる。
	4 自分の特徴を知って、短所を改め長所を伸ばすことについて教師の説話を聞く。	3	○ 学習したことの価値付けとこれからの生き方について期待感をもたせるために、説話を行う。